

1993. 2. 22

## DS - SYSTEM

神戸大学	理学部	池田裕司
東洋大学	工学部	山下正勝
上智大学	理工学部	横山和夫

これまでずっと DS-diagram を絵で示してきましたが、これらを絵に頼らずに記述する方法はないものか、と休むに似たる下手な考えを続けてきました。最近になってようやくひとつの方法が得られたような気がするので諸賢兄のご批判を仰ぎたく、ノートとしてまとめてみました。読みづらいことは承知のうえで、あえて形式的記述を採用してみました。なにしろまだ未完成なのでいいかげんなところも多く、そこらあたりは適当な表現に頼らざるをえませんでした。今回の内容は fake surface の表現法から一步も出ていませんので、新しい事柄は何もありません。

§1 は多角形表示を持ち得る 2-complex についての基礎的な話です。

§2 は collapsing map の inverse でひきもどした様子を記述するための準備です。

§3 は free face を持たない spine に限定した場合でのいくつかの基礎的性質を記述したものです。

§4 は将来 universal cover 風の記述を画策するための準備です。この部分はもうすこし話題を追加するつもりです。

§5 に至ってやっと fake surface の記述が可能になります。

DS-diagram の名前の由来を知らないのです、だじゃれでこじつけてみるために、fake surface というべきところをあえて standard polyhedron と言ってみました。

§6 は「DS-diagram が多角形表示可能である」ことを示す内容にするのを目標にしたもので、これこそがこのノートの最終目標でしたが、はたしてもくろみどおりにうまくいっているのやらないのやら、どうもいまひとつ自信がありません。

(2)

§1. POLYGONAL SYSTEM

1.1 Definition. 集合  $S$  に対し,

$$S^{\pm 1} = S \times \{+1, -1\},$$

$$S^{\pm} = S \times \{+, -\}$$

と定める。 $S^{\pm 1}$  の元  $(A, +1)$ ,  $(A, -1)$  を,  $A^{+1}$ ,  $A^{-1}$  と書く。また,  $S^{\pm}$  の元  $(A, +)$ ,  $(A, -)$  を  $A^+$ ,  $A^-$  と書く。

$$(S^{\pm 1})^n = S^{\pm 1} \times S^{\pm 1} \times \dots \times S^{\pm 1} \quad (n \text{ times})$$

の元  $(X_1, X_2, \dots, X_n)$  を長さ  $n$  の word と呼び,  $X_1 X_2 \dots X_n$  と書く。  
 $A^{-1} \in S^{\pm 1}$  に対して,

$$(A^{-1})^{-1} = A$$

と定める。また, word  $W = X_1 X_2 \dots X_n$  に対して

$$W^{-1} = X_n^{-1} \dots X_2^{-1} X_1^{-1}$$

と定める。

$A^+$ ,  $A^- \in S^{\pm}$  に対して,

$$(A^+)^+ = A^+ \quad (A^+)^- = A^-$$

$$(A^-)^+ = A^- \quad (A^-)^- = A^+$$

と定める。

$A^{+1}$ ,  $A^{-1} \in S^{\pm 1}$  に対して,

$$(A^{+1})^+ = A^+ \quad (A^{+1})^- = A^-$$

$$(A^{-1})^+ = A^- \quad (A^{-1})^- = A^+$$

と定める。

$A^{+1} \in S^{\pm 1}$  と  $A \in S$  を混同して, 同じ記号  $A$  で表わすことがある。また,  $X \in S^{\pm 1}$  と  $(X^-, X^+) \in S^{\pm} \times S^{\pm 1}$  を同一視する。

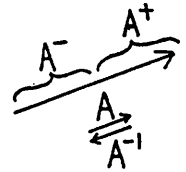
射影  $P_1: (S^{\pm 1})^n \rightarrow S^{\pm 1}$ ,  $q: S^{\pm 1} \rightarrow S$  をそれぞれ

$$P_1(W) = X_1 \quad \text{for each } W = X_1 X_2 \dots X_n \in (S^{\pm 1})^n$$

$$q(X) = A \quad \text{if } X = A^e, \quad e = \pm 1$$

で定める。

$W = X_1 X_2 \dots X_n \in (S^{\pm 1})^n$  のとき,  $q(P_1(W)) = A$  であるならば  $X_1$  は  $W$  における  $A$  の ghost である, という。



1.2 Proposition.

- (1)  $\forall X \in S^{\pm 1}; X^+, X^- \in S^{\pm 1}$ ,  
 (2)  $\forall A \in S; A = (A^-, A^+), A^{-1} = (A^+, A^-)$ .

1.3 Definition. 長さ  $k$  の words の集合  $P^k$ ,  $k = 1, 2, 3, \dots$ , を以下のように定める:

$k = 1$  のとき,  $P^1 = \{X | X \in S^{\pm 1}\}$ ,

$k \geq 2$  のとき,

- $Q \in P^k \Leftrightarrow$  (i)  $Q = X_1 X_2 \cdots X_k, X_i \in S^{\pm 1}$ ,  
 (ii)  $X_{i+1} \neq X_i^{-1}$  for each  $i \pmod{k}$ ,  
 (iii)  $X_i X_{i+1} \neq X_j X_{j+1}, X_{j+1}^{-1} X_j^{-1}$   
 for each  $i \neq j \pmod{k}$ .

$P = P^1 \cup P^2 \cup \dots \cup P^k \dots$  を polygonal set という。

1.4 Example. polygonal set の元になり得ない words の例:

$AA^{-1}, ABA^{-1}, ABCA^{-1}, \dots, ABCABD, ABCB^{-1}A^{-1}D, BCB^{-1}A^{-1}DA, \dots$

1.5 Proposition.

- (1)  $Q \in P^k \Leftrightarrow Q^{-1} \in P^k$ ,  
 (2)  $Q = XW, X \in S^{\pm 1}, Q \in P^k \Leftrightarrow WX \in P^k$ .

1.6 Definition.  $Q, Q', Q'' \in P = P^1 \cup P^2 \cup \dots \cup P^k \dots$  に対して

- (i)  $Q^{-1} \equiv Q$ ,  
 (ii)  $Q = XW, X \in S^{\pm 1} \Leftrightarrow XW \equiv WX$ ,  
 (iii)  $Q \equiv Q' \Leftrightarrow Q' \equiv Q$ ,  
 (iv)  $Q \equiv Q', Q' \equiv Q'' \Leftrightarrow Q \equiv Q''$ ,

と定めることによって  $P$  に同値関係  $\equiv$  を入れる。  $Q \in P^k$  の  $\equiv$  に関する同値類  $\alpha = [Q]$  を  $k$ -gon という。  $Q$  自身をも、混同して  $k$ -gon と呼ぶことにする。

(4)

以下  $k$ -gons の集合 :

$$\Sigma = \{ Q_1, Q_2, \dots, Q_m \mid Q_i \in P \}$$

について考える。

1.7 Definition.  $\Sigma$  に対して,

$$S_x = \{ A \in S \mid A \text{ の ghost を含む word が } \Sigma \text{ 内にある} \}$$

$$S_x^{\pm 1} = S_x \times \{ +1, -1 \}$$

とあらわす。

1.8 Definition.  $i=1, 2, \dots, m$ , とし,

$$\Sigma = \{ Q_i \mid Q_i \in P \} = \{ Q_i = X_{i,1} X_{i,2} \cdots X_{i,k(i)} \mid X_{i,j} \in S^{\pm 1} \}$$

$$\Sigma' = \{ Q'_i \mid Q'_i \in P \},$$

とする。そのとき

$$\text{bijection } f: S_x^{\pm 1} \rightarrow S_{x'}^{\pm 1}, \text{ such that}$$

$$(i) f(X^{-1}) = (f(X))^{-1} \text{ for each } X \in S_x^{\pm 1},$$

$$(ii) \Sigma' \equiv \{ f(X_{i,1}) f(X_{i,2}) \cdots f(X_{i,k(i)}) \}.$$

が存在するならば,  $\Sigma$  と  $\Sigma'$  は isomorphic であるといい,

$\Sigma \cong \Sigma'$  と書く。

1.9 Definition.  $k$ -gon  $Q$  の corner を次のように定める :

1-gon  $Q = X \in P^1$  に対して, 集合  $\Lambda = \{ X^+, X^- \}$  を  $Q$  の corner という。

$k$ -gon  $Q = X_1 X_2 \cdots X_k \in P^k$  ( $k \geq 2$ ) に対して, 集合 :

$$\Lambda = \{ X_i^+, X_{i+1}^- \}, \quad i=1, 2, \dots, k, \pmod{k},$$

を  $Q$  の corner という。

$Q \in P^k$  の corners の全体を  $\lambda(Q)$  と書く。

1.10 Proposition.

$$(1) Q \in P^k \Rightarrow \# \lambda(Q) = k,$$

$$(2) Q, Q' \in P^k, Q \equiv Q' \Rightarrow \lambda(Q) = \lambda(Q').$$

1.11 Definition.  $\Sigma = \{Q_i \mid Q_i \in P, i=1, 2, \dots, m\}$  が

$$\lambda(Q_i) \cap \lambda(Q_j) = \phi \quad \text{if } i \neq j$$

をみたすとき,  $\Sigma$  を polygonal system という。このとき

$$\lambda(\Sigma) = \lambda(Q_1) \cup \lambda(Q_2) \cup \dots \cup \lambda(Q_m)$$

と書き, その元を  $\Sigma$  の corner という。

1.12 Definition. polygonal system  $\Sigma$  に対して,  $S_{\Sigma^{\pm}}$  に同値関係 ' $\sim$ ' を次のように入れる。ただし,  $A \in S_{\Sigma}$  に対して  $A^{\circ}$  は  $A^+$  または  $A^-$  のどちらかを表わすものとする:

$$(i) \{A^{\circ}, B^{\circ}\} \in \lambda(\Sigma) \Rightarrow A^{\circ} \sim B^{\circ},$$

$$(ii) A^{\circ} \sim B^{\circ}, B^{\circ} \sim C^{\circ} \Rightarrow A^{\circ} \sim C^{\circ}.$$

$S_{\Sigma^{\pm}} / \sim$  の元を  $\Sigma$  の vertex という,  $\Sigma$  の vertices の全体を  $V_{\Sigma}$  と書く。各  $v \in V_{\Sigma}$  に one point  $|v|$  を対応させ, これを  $v$  の underlying space という。

1.13 Definition. polygonal system  $\Sigma = \{Q_i\}$  に対して,

$\alpha_i = [Q_i]$  を  $\Sigma$  の face,  $S_{\Sigma}$  の元を  $\Sigma$  の edge という。  $\Sigma$  の faces の全体, edges の全体をそれぞれ  $F_{\Sigma}$ ,  $E_{\Sigma}$  と書く。

各  $\alpha \in F_{\Sigma}$ ,  $A \in E_{\Sigma}$  に対してそれぞれ open 2-disk  $| \alpha |$ , open interval  $| A |$  を対応させ, これらをそれぞれ  $\alpha$ ,  $A$  の underlying space という。

1.14 Definition.

$A^{\circ}$  が  $v \in V_{\Sigma}$  の代表であるとき,  $v < A$  と書き,  $v$  は  $A \in E_{\Sigma}$  と incident である, という。

$A \in S_{\Sigma}$  が  $Q \in \alpha$  の ghost であるとき  $A < \alpha$  と書き,  $A \in E_{\Sigma}$  は  $\alpha \in F_{\Sigma}$  と incident である, という。

$v \in V_{\Sigma}$  と  $\alpha \in F_{\Sigma}$  に対し,  $v < A$ ,  $A < \alpha$  となる  $A \in E_{\Sigma}$  が存在するとき  $v < \alpha$  と書き,  $v$  と  $\alpha$  は incident である, という。

(6)

1.15 Definition. polygonal system  $\Sigma$  に対して  $V_x \cup E_x \cup F_x$  が作る 2次元 cell complex を spine complex と呼び、 $K(\Sigma)$  とあらわす。

各 cell の underlying space の和集合を  $|K(\Sigma)|$  と書き、 $K(\Sigma)$  の underlying space という。

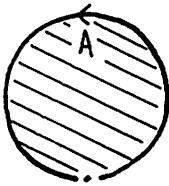
1.16 Proposition.  $\Sigma \equiv \Sigma'$  ならば次のことがなりたつ：

$$F_x = F_{x'}, E_x = E_{x'}, V_x = V_{x'}$$

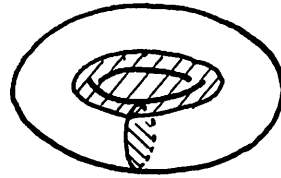
$$\lambda(\Sigma) = \lambda(\Sigma')$$

1.17 Example. spine complex の例をいくつか挙げる：

{ A }

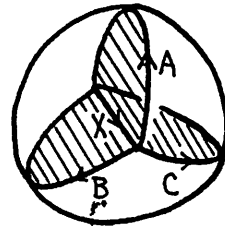
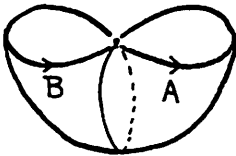


{ A, B,  $ABA^{-1}B^{-1}$  }



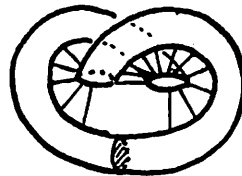
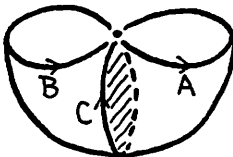
{ AB }

{  $AB^{-1}, BC^{-1}, CA^{-1}, AX, BX, CX$  }



{ AC,  $BC^{-1}$  }

{ A,  $AB^{-1}ABB$  }



## § 2. MEMBRANE COMPLEX OF POLYGONAL SYSTEM.

この節では、 $\delta$  は + または - を表わすものとする。すなわち  $A \in S_{\Sigma}$  に対しては  $A^{\delta}$  とは  $A^+$  または  $A^-$  のことである。

2.1 Definition.  $S_{\Sigma^{\pm}}$  の 3 つの元からなる集合：

$$\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}$$

が polygonal system  $\Sigma$  の junction であるとは

$$\{A_i^{\delta_i}, A_j^{\delta_j}\} \in \lambda(\Sigma) \quad \text{for each } i \neq j$$

となることである。 $\Sigma$  の junctions の全体を  $\eta(\Sigma)$  と書く。

$\beta = \langle A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2} | A_3^{\delta_3} \rangle$  が  $\Sigma$  の brim であるとは  $Y = \{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}$  が  $\Sigma$  の junction であることである。

2.2 Proposition.

$$\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\} \in \eta(\Sigma), \quad v \in V_{\Sigma}; \quad v < A_1^{\delta_1}$$

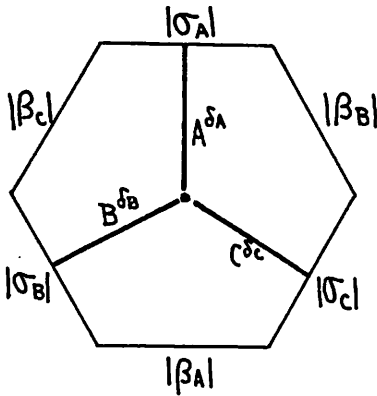
$$\Rightarrow v < A_2^{\delta_2}, \quad v < A_3^{\delta_3}$$

2.4 Definition.  $Y = \{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}$  が  $\Sigma$  の junction であるとき、 $\sigma = [A_1^{\delta_1} | A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}]$  を  $Y$  の sectional edge といふ。このとき pair  $(Y, \sigma)$  を directed junction といふ。

2.5 Definition.

junction  $Y = \{A^{\delta_A}, B^{\delta_B}, C^{\delta_C}\} \in \eta(\Sigma)$  に対して、その情報を次図のように配置したものを  $Y$  の substance といふ。また六角形状の 2-disk を  $Y$  の underlying space といひ、 $|Y|$  と表わす。segment  $|\sigma_A|$  を sectional edge  $\sigma_A$  の underlying space , segment  $|\beta_A|$  を brim  $\beta_A$  の underlying space , などといふ。

(8)



$$\begin{aligned} \sigma_A &= [A^{\delta_A} | B^{\delta_B}, C^{\delta_C}] \\ \sigma_B &= [B^{\delta_B} | C^{\delta_C}, A^{\delta_A}] \\ \sigma_C &= [C^{\delta_C} | A^{\delta_A}, B^{\delta_B}] \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \beta_A &= \langle B^{\delta_B}, C^{\delta_C} | A^{\delta_A} \rangle \\ \beta_B &= \langle C^{\delta_C}, A^{\delta_A} | B^{\delta_B} \rangle \\ \beta_C &= \langle A^{\delta_A}, B^{\delta_B} | C^{\delta_C} \rangle \end{aligned}$$

2.6 Definition. polygonal system  $\Sigma$  の brims の underlying space の全体  $\{\beta_A\}$  を  $\beta(\Sigma)$  と表わす。

$Y \in \eta(\Sigma)$ ,  $\beta \in \beta(\Sigma)$ ,  $|\beta| \subset |Y|$  であるとき  $\beta \prec Y$  と表わす。

2.7 Definition.  $m$ -gon  $Q = X_1 X_2 \cdots X_m$  に対して,  $S_Q^\pm$  の元の巡回無限列:

$$T(Q) = \cdots X_m^+ \cdot X_1^- X_1^+ X_2^- X_2^+ \cdots X_m^- X_m^+ \cdot X_1^- \cdots$$

を  $Q$  から induce された周長  $m$  の track という。  $T(Q)$  の連続した部分列を  $T(Q)$  の fragment という。

2.8 Definition. 2つの brims  $\beta_A$  と  $\beta_B$  が, 或る fragment:

$$A_1^{\delta_1} A_2^{\delta_2} B_1^{\delta'_1} B_2^{\delta'_2},$$

の因子を用いて

$$\beta_A = \langle A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2} | A_3^{\delta_3} \rangle, \beta_B = \langle B_1^{\delta'_1}, B_2^{\delta'_2} | B_3^{\delta'_3} \rangle$$

と表わされるならば, これらは adjacent である, という。

adjacent な brims  $\beta_A$  と  $\beta_B$  に対し,  $\nu = \{\beta_A, \beta_B\}$  を,  $\Sigma$  の joint point という。このとき  $\nu \prec \beta_A, \beta_B$  と表わす。

また,  $\beta_A, \beta_B$  から induce される sectional edges:

$$\sigma_A = [A_2^{\delta_2} | A_1^{\delta_1}, A_3^{\delta_3}], \sigma_B = [B_1^{\delta'_1} | B_2^{\delta'_2}, B_3^{\delta'_3}]$$

に対して  $\nu \subset |\sigma_A|, |\sigma_B|$  と表わす。

$\Sigma$  の joint points の全体を  $\nu(\Sigma)$  と表わす。



2.9 Definition. 2つの sectional edges :

$$\sigma_A = [A_1^{\delta_1} | A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}], \sigma_B = [B_1^{\delta'_1} | B_2^{\delta'_2}, B_3^{\delta'_3}]$$

がつぎの相互関係 :

$$(i) (A_1^{\delta_1})^+ = (B_1^{\delta'_1})^-$$

(ii)  $A_2^{\delta_2} A_1^{\delta_1} B_1^{\delta'_1} B_2^{\delta'_2}, A_3^{\delta_3} A_1^{\delta_1} B_1^{\delta'_1} B_3^{\delta'_3}$  は fragment, にあるとき,  $\sigma_A$  と  $\sigma_B$  は attachable であるという。

$\sigma_A$  と  $\sigma_B$  が attachable であるとき, directed junctions  $(Y_A, \sigma_A)$  と  $(Y_B, \sigma_B)$  は adjacent であるという。

2.10 Definition. sectional edges の全体  $|\sigma|$  を

$$(i) \sigma \sim \sigma$$

$$(ii) \sigma_1 \sim \sigma_2 \text{ if } \sigma_1 \text{ is attachable with } \sigma_2$$

という同値関係で同値類に分ける。そのときの同値類  $\gamma = [\sigma]$  を  $\Sigma$  の section という。  $|\sigma|$  を  $\gamma$  の underlying space といい、  $|\gamma|$  と表わす。

$\Sigma$  の sections の全体を  $\gamma(\Sigma)$  と表わす。

$(Y, \sigma)$  が directed junction, かつ  $\gamma = [\sigma]$  であるとき  $\gamma < Y$  とあらわす。

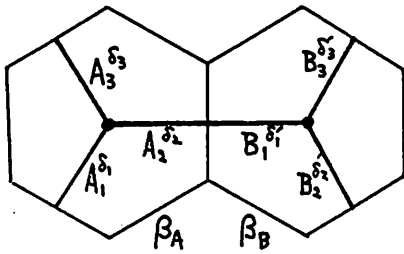
joint point  $\nu \in \nu(\Sigma)$  と section  $\gamma = [\sigma]$  に対して

$$\nu < \gamma \Leftrightarrow \nu \subset |\sigma|$$

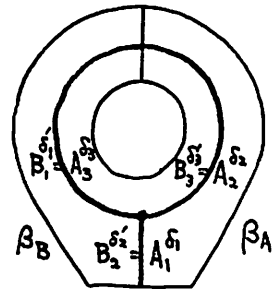
と定める。

[注意]  $\sigma_A \sim \sigma_B$  のとき,  $(Y_A, \sigma_A)$  と  $(Y_B, \sigma_B)$  に対して identification space  $|Y_A| \cup |Y_B| / \sim$  を作るができる。これらは一般には再び 2-disk となるが, 特殊な場合として, annulus になることがある。そのわけは,  $Y_A$  が self-adjacent ということが起こり得るからである。

(10)



general case



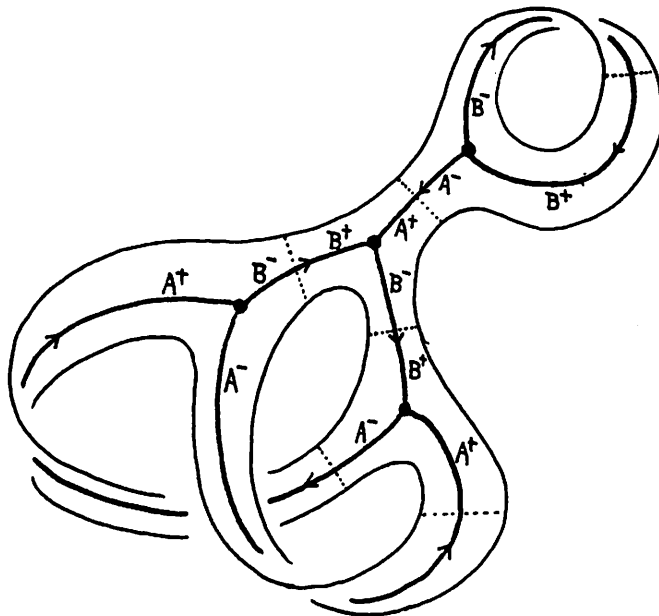
special case

2.11 Definition.  $\Sigma$  を polygonal system とする。そのとき joint points  $\nu(\Sigma)$  を 0-cells,  $\beta(\Sigma) \cup \gamma(\Sigma)$  を 1-cells, junctions の全体  $\eta(\Sigma)$  を 2-cells とする cell complex が得られる。この complex を  $\Sigma$  の membrane complex と呼び、

$$M(\Sigma) = \nu(\Sigma) \cup \beta(\Sigma) \cup \gamma(\Sigma) \cup \eta(\Sigma)$$

と表わす。

2.12 Example  $\Sigma = \{ A, ABA^{-1}BB \}$



membrane complex  $M(\Sigma)$  に対して将来 orientation を導入する必要があるかも知れない。そのときはつぎのようにしてやればよい。

2.13 Definition. junction  $Y = (A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3})$  にこの順で1つの orientation を定めたとき、それを

$$(A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3})$$

と書くことにする。  $\rho = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ i & j & k \end{pmatrix}$  を1つの置換とする。そのとき

$$(A_i^{\delta_i}, A_j^{\delta_j}, A_k^{\delta_k}) = \begin{cases} + (A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}) & \text{if } \rho \text{ is even} \\ - (A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}) & \text{if } \rho \text{ is odd} \end{cases}$$

と定める。

$$[A_1^{\delta_1} | A_3^{\delta_3}, A_2^{\delta_2}] = - [A_1^{\delta_1} | A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}]$$

$$\langle A_1^{\delta_1}, A_3^{\delta_3} | A_2^{\delta_2} \rangle = - \langle A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2} | A_3^{\delta_3} \rangle$$

と定めることにより各 section および各 brim に orientation を入れることができる。

$$[A_1^{\delta_1} | A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}] = - \langle A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2} | A_3^{\delta_3} \rangle$$

の orientation を oriented junction  $Y = (A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3})$  の orientation と一致するように定めるとき、これを  $Y$  からの induced orientation という。

(12)

### § 3. REGULAR SYSTEM.

3.1 Definition. polygonal system  $\Sigma$  が

(R-1)  $\forall A \in S_{\Sigma}, \exists Y \in \eta(\Sigma); A^- \in Y,$

(R-2)  $\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}\}, \{A_1^{\delta_1}, A_3^{\delta_3}\} \in \lambda(\Sigma) \Rightarrow \{A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\} \in \lambda(\Sigma)$

を満たすとき,  $\Sigma$  は regular である, という。

3.2 Example.  $\Sigma_1 = \{A\}$  は (R-2) を満たす(?) が (R-1) を満たさない polygonal system である。

$\Sigma_2 = \{A, B, C, ABC^{-1}BCA^{-1}CAB^{-1}\}$  は (R-1) を満たすが (R-2) を満たさない polygonal system である。(ナあーンデか?)

3.3 Proposition.  $\Sigma$  が regular ならば

(R-1')  $\forall A \in S_{\Sigma}, \exists Y' \in \eta(\Sigma); A^+ \in Y'$

が成り立つ。

[証明] (R-1) の  $Y \in \eta(\Sigma)$  を  $Y = \{A^-, B^{\sigma}, C^{\sigma'}\}$  とする。  $(X_B)^+ = B^{\sigma}$ ,  $(X_C)^+ = C^{\sigma'}$  とするとき,  $X_B A X_1 \cdots, X_C A X_2 \cdots \in P$  から自然に定まる corners  $\{A^+, X_1^-\}, \{A^+, X_2^-\}$  が存在する。(いまは暗黙のうちに  $X_B A X_1 \cdots, X_C A X_2 \cdots \in P^3 \cup P^4 \cup \cdots$  としたが, これらが  $P^1, P^2$  の元であったとしても必要な corners は存在するので心配ない。) そのとき (R-2) により,  $\{X_1^-, X_2^-\} \in \lambda(\Sigma)$  となるから  $A^+ \in \{A^+, X_1^-, X_2^-\} \in \eta(\Sigma)$ 。

3.4 Proposition. polygonal system  $\Sigma$  が regular ならば任意の directed junction  $(Y_A, \sigma_A)$  に対して,

$$\sigma_B \in [\sigma_A], (Y_B, \sigma_B) \neq (Y_A, \sigma_A)$$

なる directed junction  $(Y_B, \sigma_B)$  が一意に存在する。

[証明]  $Y_A = \{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}$ ,  $\sigma_A = [A_1^{\delta_1} | A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}]$ ,  
とする。この  $Y_A$  の substance を考えると分かりやすい。

$$\Lambda_2 = \{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}\}, \Lambda_3 = \{A_1^{\delta_1}, A_3^{\delta_3}\}$$

を corner に持つ polygon は一意に定まる。それらを

$$Q_1 = A_1^{\delta_1} A_2^{\delta_2} \dots, Q_2 = A_1^{\delta_1} A_3^{\delta_3} \dots \in E_x$$

とする。そのとき track  $T(Q_1)$ ,  $T(Q_2)$  の fragments :

$$A_2^{\delta_2} A_1^{\delta_1} A_1^{\delta_1} B_2^{\delta'_2}, \quad A_3^{\delta_3} A_1^{\delta_1} A_1^{\delta_1} B_3^{\delta'_3}$$

が一意に存在する。したがって

$$Y_B = \{A_1^{\delta_1}, B_2^{\delta'_2}, B_3^{\delta'_3}\}, \sigma_B = [A_1^{\delta_1} | B_2^{\delta'_2}, B_3^{\delta'_3}]$$

が望みのものである。

(証明終わり)

3.5 Definition.  $\Sigma$  の brims :

$\beta_i = \langle B_i^{\delta_{B_i}}, C_i^{\delta_{C_i}} | A_i^{\delta_{A_i}} \rangle$ ,  $i = \dots, -3, -1, -2, 0, 1, 2, 3, \dots$ .  
に対して,

$$\dots B_i^{\delta_{B_i}} \cdot C_i^{\delta_{C_i}} \cdot B_{i+1}^{\delta_{B_{i+1}}} \cdot C_{i+1}^{\delta_{C_{i+1}}} \dots$$

が周長  $m$  の track であるとき、これらの brims の無限列 :

$$\tau = \dots \beta_{-3} \beta_{-2} \beta_{-1} \beta_0 \beta_1 \beta_2 \beta_3 \dots$$

を  $\Sigma$  の、長さ  $m$  の train という。

$\dots \cup | \beta_{-3} | \cup | \beta_{-2} | \cup | \beta_{-1} | \cup | \beta_0 | \cup | \beta_1 | \cup | \beta_2 | \cup | \beta_3 | \cup \dots$

を  $|\tau|$  とあらわし、 $\tau$  の underlying space という。

$\Sigma$  の trains の全体を  $\tau(\Sigma)$  と表わす。

(14)

3.6 Proposition.  $\tau = \cdots \beta_{-3} \beta_{-2} \beta_{-1} \beta_0 \beta_1 \beta_2 \beta_3 \cdots$ ,  
を長さ  $m$  の train とする。ただし,

$$\beta_i = \langle B_i^{\delta_{B^i}}, C_i^{\delta_{C^i}} \mid A_i^{\delta_{A^i}} \rangle.$$

そのとき

(i)  $|\tau|$  は circle である。

(ii)  $\{B_i^{\delta_{B^i}}, C_i^{\delta_{C^i}}\} = \{B_j^{\delta_{B^j}}, C_j^{\delta_{C^j}}\}$  as a corner if  
 $i = j \pmod{m}$ ,

(iii)  $\beta_{i+2m} = \beta_i$  for each  $i$ ,

(iv)  $\beta_{i+m} = \beta_i$  for each  $i$  if  $\beta_{k+m} = \beta_k$  for some  $k$ .

[証明] 要るでしょうねえ。

3.7 Definition. 長さ  $m$  の train :

$$\tau = \cdots \beta_{-3} \beta_{-2} \beta_{-1} \beta_0 \beta_1 \beta_2 \beta_3 \cdots$$

は  $\beta_{i+m} = \beta_i$  ならば 第1種,  $\beta_{i+m} \neq \beta_i$  ならば 第2種 であるといふ。

3.8 Proposition. polygonal system  $\Sigma$  が regular ならば  $\Sigma$  の任意の brim  $\beta = \langle B^{\delta_B}, C^{\delta_C} \mid A^{\delta_A} \rangle$  に対して  $\beta_0 = \beta$  なる train  $\tau = \cdots \beta_{-3} \beta_{-2} \beta_{-1} \beta_0 \beta_1 \beta_2 \beta_3 \cdots$  が (方向を無視して) 一意に存在する。

証明は Proposition 3.3 を繰り返し用いれば自然に得られる。

3.9 Proposition. polygonal system  $\Sigma$  が regular ならば  $\Sigma$  の membrane complex  $M(\Sigma)$  の underlying space  $|M(\Sigma)|$  は circles  $|\tau|$  を境界の連結成分とする曲面である。

[証明] 要るでしょうか?

## § 4. DEVELOPABLE SYSTEM

4.1 Definition. regular polygonal system  $\Sigma$  が  
(D-1) 任意の2つの junctions  $Y, Y' \in \eta(\Sigma)$  に対して  
junctions の列:

$$Y = Y_1, Y_2, \dots, Y_p = Y', Y_i \in \eta(\Sigma)$$

such that

$Y_i$  と  $Y_{i+1}$  とは adjacent for each  $i$  ( $1 \leq i \leq p-1$ ),  
が存在する,

(D-2)  $\Sigma$  が第2種の train を含まない,  
を満たしているとき,  $\Sigma$  は developable である, という。

4.2 Example.

$$\Sigma_1 = \{ AB^{-1}, BC^{-1}, CA^{-1}, AD, BD, CD \}.$$

$$\Sigma_2 = \{ A, B, ABA^{-1}B^{-1} \}.$$

$\Sigma_1, \Sigma_2$  は regular であるが, これらは (D-1) を満たさない。

4.3 Proposition. polygonal system  $\Sigma$  が (D-1) を満たすならば,  $\Sigma$  の membrane complex  $M(\Sigma)$  は connected である。

4.4 Example.  $\Sigma = \{ A, ABA^{-1}BB \}$  は (D-1) をみたす regular system だが (D-2) を満たさない。(2.12 Ex.を参照せよ!)

4.5 Definition. 平面  $R^2$  で考える。

$$V_0 = \{0\}$$

$$V_1 = \{e^{i\theta} \mid \theta = 2k\pi/3, k=0,1,2 \pmod{3}\}$$

$$E_1 = \{0 * y \mid y \in V_1\}$$

$$V_2 = \{2e^{i\theta} \mid e^{i\eta} \in V_1, \theta = \eta \pm (2\pi/3 \cdot 2^2)\}$$

※ 具体的には  $\theta = \pi/6, 3\pi/6, 5\pi/6, 7\pi/6, 9\pi/6, 11\pi/6$ .

$$E_2 = \{x * y \mid x = e^{i\eta} \in V_1, y = 2e^{i\theta}, \theta = \eta \pm (\pi/6)\}$$

(16)

$$V_n = \{n e^{i\theta} \mid (n-1) e^{i\theta} \in V_{n-1}, \theta = \eta \pm (2\pi/3 \cdot 2^n)\}$$

$$E_n = \{x * y \mid x = (n-1) e^{i\theta} \in V_{n-1}, y = n e^{i\theta},$$

$$\theta = \eta \pm (2\pi/3 \cdot 2^n)\}$$

$$V = V_0 \cup V_1 \cup V_2 \cup \dots \cup V_n \cup \dots$$

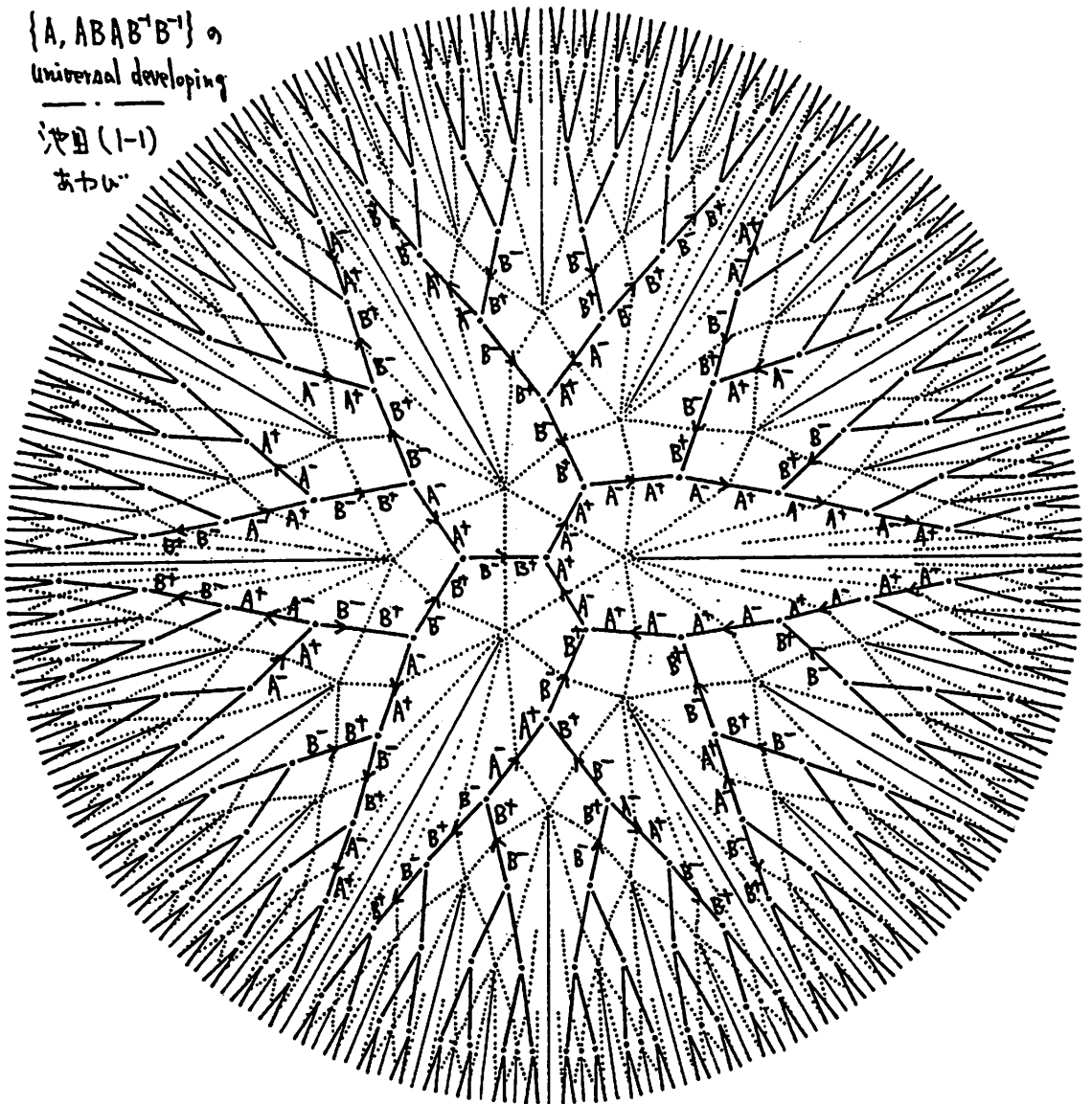
$$E = E_1 \cup E_2 \cup \dots \cup E_n \cup \dots$$

$$T = (V * E)$$

このようにして、平面上に標準的な 3-regular tree  $T$  が得られる。これをさらに図のように細分(?)したものを  $U$  とあらわす。

$\{A, ABAB^{-1}B^{-1}\}$  の  
universal developing

や組 (1-1)  
あわい





4.6 Proposition.  $\Sigma$  が developable system であるならば、しかるべき自然な方法で

$U$  が  $p : U \rightarrow M(\Sigma)$  を universal covering map として  $\text{Int } M(\Sigma)$  上の universal covering space となる、ように combinatorial map  $p$  を構成することができる。ただし、 $\text{Int } M(\Sigma)$  は  $M(\Sigma)$  から境界部分を形成している brims 全体を取り除いて得られる open complex のことである。

4.7 Definition. 上の  $p : U \rightarrow M(\Sigma)$  を  $\Sigma$  の universal developing という。

4.8 Proposition.  $U$  の combinatorial structure を保存する自己同型の全体は自由群  $Z_2 * Z_3 * Z_2$  と同型である。また向きを保つものに制限すれば自由群  $Z_2 * Z_3$  と同型である。

河野正晴氏の主張によれば、 $U$  には双曲構造が入り、自己同型というよりむしろ、組合せ構造を保つ等長変換の全体と考える方がよいということである。たしかにそのとおりであると思う。思うけれども悲しいことに、我ら三バカトリオは無学文盲（まさか差別用語じゃないでしょうね？）、どうしてよいやら皆目見当がつかない。

詳しくは河野大神のご託宣を仰ぐことにしよう。アラーは偉大なり！基本領域なども考えやすいことだし・・・。

基本領域といえばポアンカレを思い出しますね。モノの本によると彼は力学系の研究のために3次元多様体を調べ出したが、その方法として双曲構造を持った covering space の変換群－クライン群だかメビウス群だかナンカそんな風な名前がついていたっけ－を分類すればよいと考えていたようだが、途中で投げ出してさっさと天国に行っちゃった。なんのことはない、私達もそんなジャングルに踏み込んでしまいましたね。まあ3次元から2次元に降ろせただけでもよしとしましょう。望みがないわけじゃなし・・・。

(18)

§5. STANDARD SYSTEM.

この節では断わらない限り、 $\Sigma$ は regular system とし、 $F_x$ ,  $E_x$ ,  $V_x$  はそれぞれ  $\Sigma$  の face, edge, vertex の集合を表わすものとする。

5.1 Definition. regular system  $\Sigma$  が

(S-1) 任意の  $A \in E_x$  に対して

$\Sigma$  は  $A$  の ghosts を丁度 3 個含む、

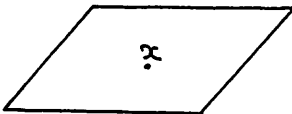
(S-2) 任意の  $v \in V_x$  に対して

$$\# \{ A^0 \in S_x^+ \mid v \in A^0 \} = 4$$

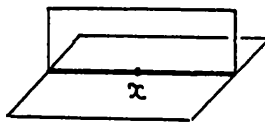
を満たすとき、 $\Sigma$  は standard である、という。

5.2 Example.  $\Sigma = \{ A, ABA^{-1}BB \}$  は standard system である。

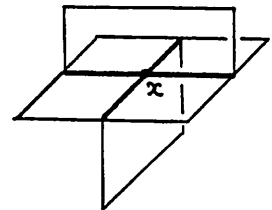
5.3 Definition. (Casler)  $X$  を topological polyhedron とする。  $X$  の各点  $x$  の  $X$  における近傍が次の 3 つ：



type I



type II



type III

のいずれかであるとき  $X$  を standard polyhedron という：

standard polyhedron  $X$  が或る 3 次元多様体に埋蔵できるとき  $X$  を standard spine という。

5.4. Proposition.  $K(\Sigma)$  を standard system  $\Sigma$  の spine complex とするとその underlying space  $|K(\Sigma)|$  は standard polyhedron である。

[証明]  $x \in |K(\Sigma)|$  の近傍を調べればよい。

$x \in |\alpha|$ ,  $\alpha \in F_x$  のとき  $\Rightarrow x$  は type I

$x \in |A|$ ,  $A \in E_x$  のとき  $\Rightarrow x$  は type II

$x \in |v|$ ,  $v \in V_x$  のとき  $\Rightarrow x$  は type III

5.5. Proposition. standard system  $\Sigma$  が (D-2) を満たすならば,  $\Sigma$  の spine complex の underlying space  $|K(\Sigma)|$  は standard spine である。

5.6. Proposition. standard system  $\Sigma$  に対して,  $\#V_x = n$  ならば  $\#E_x = 2n$ ,  $\#\lambda(\Sigma) = 6n$  が成り立つ。

[証明] 5.1の(ii) から  $\#S_x^* = 4n$  である。ところが  $\#S_x^* = 2(\#E_x)$  であるから,  $\#E_x = 2n$  となる。つぎに,  $\Sigma = \{Q_1, Q_2, \dots, Q_m \mid Q_i \in P^{i(m)}\}$  とすると,

$$\#\lambda(Q_i) = i(m)$$

であるから

$$\begin{aligned} \#\lambda(\Sigma) &= \#\lambda(Q_1) + \#\lambda(Q_2) + \dots + \#\lambda(Q_m) \\ &= i(1) + i(2) + \dots + i(m). \end{aligned}$$

ところが 5.1の(i)により各 edge に対する  $\Sigma$  上の ghost は 3 個だから

$$i(1) + i(2) + \dots + i(m) = 3 \times \#E_x = 6n.$$

$$\therefore \#\lambda(\Sigma) = 6n.$$

5.7. Definition. polygonal system  $\Sigma$  に対して, vertex  $v \in V_x$  の代表を含む  $\Sigma$  の junctions の数を  $\eta_v(\Sigma)$  と表わす。

5.8. Proposition.  $\Sigma$  が standard system ならば  
 $\# \eta_v(\Sigma) = 4$  for each  $v \in V_\Sigma$

[証明 5.1の(ii)により, 任意の  $v \in V_\Sigma$  に対して

$$\# \{A^\circ \in S_\Sigma \mid v \prec A^\circ\} = 4$$

である。いまそれら  $v$  と incident な  $S_\Sigma$  の4つの元を

$$\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}, A_4^{\delta_4}\} \subset S_\Sigma$$

とする。これら4つの中から3つ取り出す方法は4種類だから,  $v$  と incident な junction は高々4つしかない。すなわち

$$\therefore \# \eta_v(\Sigma) \leq 4.$$

さて  $\# \eta_v(\Sigma) \neq 4$  すなわち  $\# \eta_v(\Sigma) \leq 3$  と仮定してみる。そのとき

$$\{A_i^{\delta_i}, A_j^{\delta_j}, A_k^{\delta_k}\}, \quad i, j, k = 1, 2, 3, 4, \quad i \neq j, \quad j \neq k, \quad k \neq i,$$

のうちどれかひとつ, たとえば  $\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}$  は  $\eta_v(\Sigma)$  の元でない。 $\Sigma$  は regular だからこの組については

$$\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}\}, \{A_2^{\delta_2}, A_3^{\delta_3}\}, \{A_3^{\delta_3}, A_1^{\delta_1}\}$$

のうちで corner になり得るのは高々ひとつしかない。そこで

$$\{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}\}, \{A_1^{\delta_1}, A_3^{\delta_3}\} \notin \lambda(\Sigma)$$

とする。 $v \prec A_1, A_4$  だから  $A_1 \sim A_4$  を与える relation として

$\{A_1^{\delta_1}, A_4^{\delta_4}\}$  は corner にならざるを得ない。

また,  $v \prec A_2, A_3$  だから

$$\{A_2^{\delta_2}, A_4^{\delta_4}\} \text{ または } \{A_3^{\delta_3}, A_4^{\delta_4}\}$$

のいずれか一方は corner にならざるを得ない。たとえば

$$\{A_2^{\delta_2}, A_4^{\delta_4}\} \in \lambda(\Sigma)$$

とすると  $\Sigma$  の regularity から

$$\{A_1^{\delta_1}, A_4^{\delta_4}\}, \{A_2^{\delta_2}, A_4^{\delta_4}\} \in \lambda(\Sigma) \Leftrightarrow \{A_1^{\delta_1}, A_2^{\delta_2}\} \in \lambda(\Sigma)$$

となるが, これは仮定に矛盾する。他方を選んでも同様である。

したがって  $\# \eta_v(\Sigma) = 4$  でなければならない。(証明終わり)

## § 6. DS SYSTEM.

6.1 Definition. (池田-井上) 2-sphere  $S^2$  から standard spine  $P$  への連続写像  $f: S^2 \rightarrow P$  について考える。  $P$  の各 0-, 1-, 2-cell  $\alpha$  に対して  $f|_{f^{-1}(\alpha)}$  が PL 同相であるならば、この  $f$  を identification map といい、  $\Delta = (S^2, f)$  を DS-diagram という。

6.2 Definition. 2つの DS-diagrams  $\Delta_1 = (S^2, f_1)$  と  $\Delta_2 = (S^2, f_2)$   $f_1: S^2 \rightarrow P_1$  に対して  $P_1$  から  $P_2$  の上への同相写像  $h$  が存在して、  $h \circ f_1 = f_2$  となるならば、  $\Delta_1$  と  $\Delta_2$  は 同値 であるという。

6.3 Definition.  $\{\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_m\}$  を DS diagram  $\Delta$  の 2-cells の label の全体とする、  $\alpha_1$  の boundary を一方向に呼んだ word を  $\partial \alpha_1$  とする。そのとき

$$\Sigma(\Delta) = \{\partial \alpha_1, \partial \alpha_2, \dots, \partial \alpha_m\}$$

を  $\Delta$  から induce された DS-system という。

6.4 Proposition.  $\Sigma(\Delta)$  は polygonal system である。

6.5 Theorem.  $\Delta_1, \Delta_2$  を DS-diagrams とし、  $\Sigma(\Delta_1), \Sigma(\Delta_2)$  を、  $\Delta_1, \Delta_2$  から induce された DS-systems とする。  $\Delta_1, \Delta_2$  が同値であるための必要充分条件は  $\Sigma(\Delta_1)$  と  $\Sigma(\Delta_2)$  が polygonal system として isomorphic であることである。

6.6 Definition. polygonal system  $\Sigma$  が或る DS diagram  $\Delta$  から induce された DS-system と isomorphic であるとき、  $\Sigma$  を DS-system という。

(22)

以下、断わらない限り  $\Sigma$  は polygonal system とし、 $F_x$ ,  $E_x$ ,  $V_x$  はそれぞれ  $\Sigma$  の face, edge, vertex の集合を表わすものとする。

6.7 Proposition. DS-system は regular system である。

6.8 Proposition. DS-system は developable system である。

6.9 Proposition. DS-system は standard system である。

6.10 Proposition. DS-system  $\Sigma(\Delta)$  に対して  
$$\# F_x = \# V_x - 1$$

がなりたつ。

6.11 Example.

$\Sigma_1 = \{ ABCDE, AXDB^{-1}C^{-1}, BXEC^{-1}D^{-1}, CXAD^{-1}E^{-1}, DXBE^{-1}A^{-1}, EXCA^{-1}B^{-1} \}$  は developable system であるが DS-system ではない。(この system は Seifert-Weber の hyperbolic dodecahedron space から得られるものである。)

$\Sigma_2 = \{ A, ABA^{-1}BB \}$  は standard system だが DS-system でない。

$\Sigma_3 = \{ A, ABAB^{-1}B^{-1} \}$  は DS-system である。(これはおなじみの「あわび」である。)

6.12 Theorem.  $\Sigma$  が DS-system であるための必要十分条件は

(i)  $\Sigma$  は developable system,

(ii)  $\Sigma$  は standard system,

(iii)  $\# F_x = \# V_x - 1$ .

の3つがなりたつことである。

6.13 Proposition.  $\Sigma$  を developable かつ standard な polygonal system とする。そのとき

$$\# F_x = \# V_x - 1$$

[証明]  $\# V_x = n$  とすると  $\# \eta(\Sigma) = 4n$ ,  $\# E_x = 3n$  である。一方,  $\Sigma$  の membrane complex  $M(\Sigma)$  の underlying space である曲面  $|M(\Sigma)|$  の core は 3-regular graph である。したがってオイラー標数は  $\chi(|M(\Sigma)|) = 4n - 6n = -2n$  である。

$\# F_x = m$  とすると  $\# \tau(\Sigma) = 2m$  だから  $|M(\Sigma)|$  は  $2m$  個の境界を持つ。その各連結成分に 2-disk を貼って得られる閉曲面を  $W$  とすると

$$\chi(W) = \chi(|M(\Sigma)|) + 2m = -2n + 2m \leq 2$$

$$\therefore m \leq n + 1$$

6.14. Corollary.  $\# F_x = \# V_x - 1 \Leftrightarrow W$  は 2-sphere.